

調査区である伝本丸取付台東半部の規模は、長軸方向が約 43m、短軸方向が約 17mです。

調査前は見学者の立ち入り制限を設けない公開エリアで、伝本丸跡と天主跡とをつなぐ見学者動線には腐植土が堆積しておらず、雨に洗われ、踏圧もあって周囲よりもやや低くなって樹根や礎石が露出しています。

これまでに石列、建物礎石と硬化面が見つっています。天主台石垣と伝本丸取付台との接点では、構築順序を考える手がかりが得られる可能性があります。また、昭和の石垣修理の影響範囲も確認しています。

天主跡

伝本丸跡



復元・体感アプリ
安土城

伝本丸跡から6種類の復元天主を見比べることができます。



《石列》

昨年度の調査では、礎石建物を区画する石列が見つっていました。今回の調査ではこれにつながる石列が見つっています。石列は途中で南に向きを変えますが、最終的にどこにつながるかはまだわかっていません。

石列の石材は、平坦な面を天主石段側に向けて直線的に揃えて並べています。

《建物礎石》

調査区の中央部分から東側では建物の礎石が見つっています。今回確認した礎石は、昨年度の調査で確認した礎石のように1mを超える大型のものは無く、現在のところ80cm程度のものばかりです。

《石垣修理の影響範囲と遺構検出面》

調査区の周囲の石垣は昭和40年代に修理工事を行っています。今回の調査では、その影響範囲をこれまでに確認しています。

石列や遺構検出面は北東に傾斜しています。これは、雨水を伝本丸跡に流れないように対策したものと考えられます。なお、伝本丸跡の発掘調査では、伝本丸取付台側に石組み溝が見つかり、取付台からの雨水対策が講じられています。

伝本丸取付台平面図 (S=1/200)

